

JSQCニュース No.197

発行 社団法人 日本品質管理学会 東京都杉並区高円寺南1-2-1 賄日本科学技術連盟東高円寺ビル内 電話 03(5378)1506
ホームページ: http://www.stat.ie.musashi-tech.ac.jp/jsqc/

(社)日本品質管理学会のビジョン

このたびJSQCのビジョンが次のとおり策定されましたので、その背景を含め紹介いたします。

ビジョン

「社会、産業構造が大きく変わろうとしている現在、品質に対する社会の関心と期待は益々強くなっている。本学会は品質管理の先達としてこの期待に応えるとともに、参加する会員自身や企業・団体にとってその活動が有益なものとして生かせる、会員のための学会を目指していく必要がある。これは、とりもなおさず「学理及び技術の進歩発達を図り学術、産業の発展に寄与する」という学会の目的を実現するということにほかならない。そのためには、大きく変化する社会、企業環境にうまく対応するため、これまでにも増して、先端分野、新しい技術・手法の研究開発の推進に寄与すると共に、TQCからTQMへの変革を見据え、得られた成果を産業界に広く普及させる橋渡しとしての役割を明確にした学会の運営を行う。

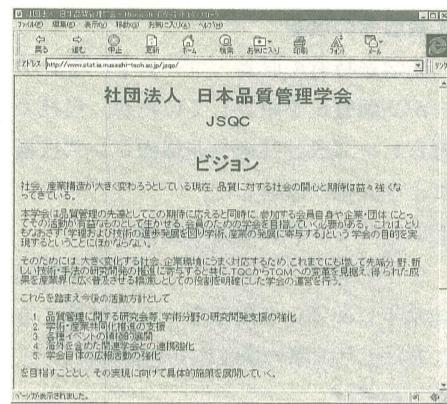
これらを踏まえた今後の活動方針として
 (1)品質管理に関する研究会等、学術分野の研究開発支援の強化
 (2)学術・産業共同化推進の支援
 (3)各種イベントの積極的展開
 (4)海外を含めた関連学会との連携強化
 (5)学会自体の広報活動の強化

を目指すこととし、その実現に向けて具体的な施策を展開していく。」

長期計画委員会による検討

JSQCは、会員のための学会を目指した活動を続けており、これまでにも多岐にわたり多くの成果を生み、会員及び外部からも評価をいただいている。しかし

一方では学会内でも幾つかの課題が顕在化しているのも事実です。それらの課題をその都度解決して学会としての使命を果たしていくことも大切なことではあります。多くの会員を有する当学会が品質管理の先達としての役割を維持していくためには長期的な視点に立った課題への取組が必要となってきます。



そこで理事会の下に長期計画委員会を組織し、長期的視野に立ちその改善に努めることとしました。今年度はこれまでの長期計画委員会の活動や、会員からの改善に向けての意見などを整理し、これをもとに15項目にのぼる長期的課題を具体的に設定しました。そして、これらの課題の内、全体に大きく係わる項目として「学会のビジョンの明確化」に取り組むこととしました。

JSQCを取り巻く環境

各企業においては、グローバル化の進展や規制緩和による企業間競争の激化、情報技術の発展など激しい社会・企業環境の変化等に素早く、柔軟に対応する必要に迫られています。また、TQCからTQMへの変革に対する産業界の関心、言い換えば「品質経営」というフレーズへの関心の高まりの中で、学会および会員に

NTTデータ通信株 山本 勝己

対する期待や要望も強まりつつあります。こうした期待や要望に的確に応えるためには、これまでにも増して先端分野、新しい技術や手法の研究開発の推進に寄与することは勿論のこと、得られた成果を産業界に広く還元・普及させるための橋渡しの役割を担う学会の運営そのものについても、新たな視点で見直していく必要があります。

共通の行動指針となるビジョン

実践の学問である品質管理には、企業からの題材の提供は不可欠であり、技術・手法などの研究や開発には学術研究者の支援・協力活動が必須のものとなっています。この両者の協力関係が円滑に保たれることこそが、学会の目的である「品質管理に関する学理及び技術の進歩発達を図り、もって学術、産業の発展に寄与する」を実現することになると言えます。そこで大切なことは、このような行動を学会、会員同士が同じ共通の認識の上で実行するということです。つまり、会員相互の交流や企業・団体への有益な寄与を展開していくために、学会としての長期的視点に立った確かな「行動指針」を持つことが大切だと言えます。学会としてのしっかりした行動指針、それが長期的課題への対処構想、すなわちビジョンと捉えることができるのではないかでしょうか。

今後、学会の一層の活性化を図るためにには、このビジョンをお題目に終わらせずに各項目を具体化し実行していくことが必要です。

学会の掲げるビジョンの実現に向けた会員の方々の、ご理解とご支援・ご協力が益々大切になると想っています。

私の提言

情報化社会における品質管理

武藏工業大学 経営工学科

教授 横山真一郎

このたび学会理事を仰せつかり、今年度から設置された広報委員会を担当させていただきました。私自身がこの任に適するかどうかは疑問ですが、誠心誠意努力いたします。

さて、広報委員会の活動と関連させて提言を書きたいと思います。

各企業における品質管理あるいはTQCに対する評価は、昨今の経営状況の変化に伴い変化してきているようです。私の所属する大学に限定しての話ですが、学生の就職活動からも「品質管理技術」の求人は少なくなっているかに見えます。本当に今TQCあるいはTQMが必要とされなくなったのでしょうか。もちろんそのようなことはありません。ただし、企業が情報化社会における、時代に応じた新しい管理技術を欲していることは事実です。われわれは世の中のニーズに応えるためにも企業の実際をもっと知る必要があります。特に情報技術を活用したこれからの品質管理がどのようになるのか、興味深いものがあります。そのためには今まで以上に産学協同の研究が必要であるとともに、効果的でしょう。もちろん品質管理学会もこれに対応した活動をしているわけです。この活動を広く知らしめる必要があります。このことからも広報委員会の責任の大きさを痛感しています。

また、情報技術の発達もあり、企業は海外に進出しています。この企業のグローバル化のためには日本のTQMではありません。海外で、外国企業の品質管理の実態に触れるたびに思うことは、やはり日本で育ってきた品質管理は「日本の文化」そのものであるということです。日本人同士ならば通じることでも、海外ではそうはいきません。環境や文化の異なる世界とのコミュニケーションが必要となるのです。したがって、何らかの情報手段を介して、その国に合ったわかりやすいTQMが必要なのです。その際どのように情報技術を取り入れるかを考えることが大切でしょう。

広報委員会では、情報の発信とともに、情報技術の活用、情報の共有化そして情報の迅速な伝達に向け努力していきます。会員の皆様からの情報と忌憚なきご意見ご要望をいただければ幸いです。

申込方法: ご案内(付) 参加申込書(7月下旬発送)に所定の事項を記入のうえ、本部事務所宛FAXにてお申し込み下さい。
 申込締切: 8月8日(金)定員30名
 集合: 8月26日(火)13:30上記会場に集合
 備考: 学生会員に対しては一定額を限度として交通費を支給いたします(当日会場にて支給)

行

事 案

内

●第27回年次大会研究発表会

研究・事例発表の募集

開催日時: 10月25日(土)10時~19時

会場: 成城大学 7号館

(東京都世田谷区成城6-1-20)

申込方法

発表申込締切	8月30日(土) 発表要旨(200字以内)を添付
予稿原稿締切	9月30日(火) 申込者に「原稿の書き方」を送付します。(2,000字×4枚以内)

会員No.氏名(発表者には○印を記入)、勤務先、連絡先、電話番号を明記のうえ上記期日までに本部事務局宛送付して下さい。

研究・事例発表者も参加手続き必要です。

●第62回講演会(中部支部)ORSJ・JIMA・JSQC 3学会共催

日 時: 7月11日(金)講演会10:00~17:20

懇親会17:40~19:40

会 場: 名古屋工業大学 2号館 1F教室
名古屋市昭和区御器所町

内 容: (1)統計的方法の教育について

永田 靖氏 岡山大学助教授

(2)仮説検証型データベースマー

ケティングの実践例について

井上貴夫氏さくら情報システム常務取締役

(3)カオスとその応用

五百旗頭正氏(株)明電舎シス

テム技術部主任技師

(4)21世紀情報社会の展望-Java

による情報発信-

岩田 彰氏 名古屋工業大学教授

定 員: 150名

参加費: 講演会5,000円(会員・非会員共)

懇親会5,000円(会員・非会員共)

申込締切: 7月7日(月)定員になり次第締切

申込方法: 中部支部宛FAXで会員No.、氏名、

勤務先、住所、所属、電話番号

を明記して申込み下さい。

●第5回ヤング・サマー・セミナー(本部)

若手の会員の親睦をはかるとともに、品質管理や応用統計などのホットなテーマを中心に勉強・議論し、自己研鑽の場を提供することを目的として開催します。

会 期: 8月26日(火)午後~27日(水)午後

会 場: 「山中荘」日野自動車工業(株)保養所
山梨県南都留郡山中湖村山中865-246

参加資格: 正会員・準会員(原則として

35才以下)

参加費: 無料(交通費自弁)

わが社の最新技術

マルチメディア時代の高品質映像を提供する
～世界最高・超広角放送用ズームレンズの開発～

1.はじめに

当社は、最近話題のAPSカメラ、CD・DVDなどのレーザー光学系レンズ、複写機やプリンターの光学系、宇宙衛星に搭載される地球探査用光学系など種々の光学機器の開発を行っている。

今回は放送用TVレンズについて紹介する。

地球の裏側の出来事であったペルー日本大使館人質事件の突入の瞬間を、私たちは現場の臨場感そのままに、また、外国の美術館や各種イベントの模様を家に居ながらにしてリアルな映像として見ることが出来る。

TV用レンズは、このようなニュース取材や娯楽・イベントなどの各種番組制作からマルチメディア情報の高画質映像を提供する手段として、機能している。

2.世界最高・超広角ズームレンズ

大画面・横長テレビ（画面サイズ16対9）の流行により、テレビ番組においても劇場映画のような臨場感溢れる映像を楽しめるようになってきた。

ニュース取材や番組制作の現場からは、被写体により接近して広範囲な映像を捉え、ズームアップで臨場感を演出できる高性能・超広角ズームレンズの開発を望む声が高まってきた。

これらのニーズに対して、当社では昨

富士写真光機株 土屋 主道
年、驚異のハイスペックと性能の高さを誇る放送用ENG (Electric News Gathering) レンズとして超広角ズームレンズ『A10×4.8E』を発表し、国内および海外で大きな反響を呼んでいる。



3.主な特徴

高度なレンズ位置決め技術・最先端の非球面レンズ技術・レンズ表面処理技術・光学設計シミュレーション技術など当社の誇る数々の固有技術をバランスよく融合させることにより、世界最高の性能と小型・軽量化による機動性・操作性の向上を実現した。

焦点距離：4.8~48mm

ズーム比：10倍

エクステンダー：×2

最大口径化：1:1.8~2.3

最短撮影距離：0.3m

マクロ撮影：可（最短50mm）

全長：Φ95×244.4mm

重量：1.85kg/1.92kg

価格：180万円（標準）

発売時期：1996年12月

①世界初、未知のアングル90°を実現

従来は焦点距離5mmを切ることは非常に困難とされていたが、今回4.8mmを実現し、世界初90°の超広角画像(16対9フォーマット)を捉えることが可能になった。(35mmカメラ換算で、18.9mmに相当)

②世界初、超広角ズームレンズでクラス最高の10倍を実現

望遠化の難しい超広角ズームレンズにおいて、このクラスでは最高の10倍を実現し、ニュース取材や番組製作などに必要な広角から望遠までの臨場感溢れる映像の撮影チャンスが拡大した。

③ディストーション1%以下の実現

制御が難しいワイド端での画面の歪み（ディストーション）を1%以内に抑え、画面の隅々まで歪みのない高画質映像が得られた。

④諸収差の改善

光学系特有の収差・ゴースト・フレア一が高画質化を阻害していたが、当社の誇るレンズ設計技術や非球面レンズ技術により大幅に改善した。

⑤フレーミングに威力を發揮

ワイド側のフォーカシングによる被写体サイズの変化を限りなく0%に抑えることにより画面の構成作りを容易にした。

4.むずび

今後も、世界のお客様とともに新しい設計手法と製造技術を確立し、ワイドから望遠までマルチメディアに対応できる夢のレンズ作りを目指して行きたい。

第223回事業所見学会(本部)ルポ

花王生活科研究所のEchoシステム

Echoシステム、クイックル・ワイヤーなどで高名な花王の花王生活科学研究所（以下、生活研：東京都墨田区文花）の見学会が2月5日に開催された。参加者は当初30名の応募に対して100名以上の応募があり、急拵定員を2倍にお願いした程好評の見学会であった。

まず、神田行事委員長から挨拶があり、続いて生活研の大井謙部長から会社概要、生活研の活動、特にKAO New Echo System（以下、Echoシステム）について詳細な説明があった。

生活研は、花王製品が平均46個／世帯・年使用され、だれでもが毎日使う家庭用品であるため反応が早く、意見がすぐに出る、また単価が安く、購入頻度が高いため悪いとすぐ他社製品に代るので消費者とのコミュニケーションが重要であるとの考え方から1971年に前組織を改編、発足した。この生活研は、①消費者相談、②消費者交流（行政、教育界や消費者団体などとの交流）、③生活科学研究（消費者の意識、行動の体系的把握と科学的検証など）の3部門で構成されている。

Echoシステムは、お客様からの相談・苦情に正確・迅速・親切に対応し、消費者の声を企業活動へ反映するための相談窓口支援システム、相談結果の入力システムと解析システムで構成されている。相談や苦情は年間約7万件も寄せられる。

お客様からの相談・苦情は、商品外観

などのカラー自然画情報と商品・生活情報などの白黒のイメージ情報を制御するワークステーションを操作しながら10名が対応している。

これらの情報はインプットされ、解析されたDBを各部門の端末でのオンライン検索や生活研が消費者の代弁者として発言することによって商品の改善・改良、商品開発などに有効に活用されている。

参加者が多いため2班に分かれて、化粧品工場の見学と相談室でのデモンストレーションが行われた。

最後に活発なQ&Aが行われ、定刻になったため質問を打ち切り、散会した。短時間であったが極めて有益な見学会であった。

八丹正義（キリンビル）

1997年5月・6月の入会者紹介

1997年5月23日の理事会において、下記のとおり、正会員22名、準会員22名、賛助会員1社1口の入会が承認された。

（正会員）22名（敬称略）

○小川雅明（東芝情報システム）、○東峰正明（松下電器産業）、○和具健治・瀧澤幸男（日野自動車工業）、○山内正久（カヤバ工業）、○草野裕（日本ナショナル製罐）、○執行達朗（サッポロビール）、○山梨紘栄（東急建設）、○板倉稔（富士通）、○宮崎正常（積水化学工業）、○矢吹浩徳（アイテス）、○北島政憲（PL病院）、○山本登（東燃化学）、○増谷雅博（リクルートコンピュータパブリシング）、○野村浩司（松下通信工業）、○山崎英雄

行 事 案 内

●第67回シンポジウム（本部）予告

「TQMと人材開発・教育マネジメント」

日 時：9月19日(金)9時30分～16:30分

会 場：財修養団SYDホール

東京都渋谷区千駄ヶ谷4-25-2

内 容：(1)基調講演「品質教育とTQM」

吉澤 正氏 筑波大学

(2)企業事例（2件）

アイシン精機㈱（交渉中）

竹中工務店（交渉中）

(3)発表（3件）

「人材開発・教育マネジメント開発とQFD」

（交渉中）

「デミング賞受賞企業に見る人材開発マネジメント」

西山裕子氏 産能短期大学

吉澤 正氏 筑波大学

「これからのヒューマンリソースマネジメント」

ゲスト講師（交渉中）

(4)パネル討論と総合質疑

定 員：150名 締切日 9月12日(金)

参 加 費：会費4,000円（締切後4,500円）

非会員6,000円（締切後6,500円）

申込方法：参加申込書（7月下旬発送）に所定の事項を記入のうえ本部事務局宛申込み下さい。

各種行事の申込先

本 部：〒166 東京都杉並区高円寺南1-2

-1, 財日本科学技術連盟内、(社)日本品質管理学会事務局、

電話03(5378)1506

FAX03(5378)1507

中部支部：〒460 名古屋市中区栄2-6-12、

白川ビル、財日本規格協会名古屋支部内、(社)日本品質管理学会

中部支部、電話052(221)8318、

FAX052(203)4806

関西支部：〒530 大阪市北区堂島浜2-1-25、

中央電気俱楽部、財日本科学技術連盟内、(社)日本品質管理学会

関西支部、電話06(341)4627、

FAX06(341)4615

筑波大学（社会工学系）教員公募 数理科学（システム数理）夜間勤務

(1)採用人員：助教授又は講師1名

(2)応募資格：博士又はPh.D学位を有すること、或いは博士論文相当の著作・論文があること／査読付き、同等論文4編（講師1編）以上公刊／上記専門分野の研究業績があり、大学院での研究指導が可能／97年4月に満40歳以下（講師35歳以下）であること。

(3)応募締切：平成9年8月31日(日)

採用時期・選考方法・提出書類等

提出・問い合わせ先：

〒112 文京区大塚3-29-1

筑波大学大学院経営科学研究科経営システム科学専攻 教授 吉澤 正

電話(03)3942-6871 FAX(03)3942-6829

不在の場合、学校教育事務部総務課人事係
電話(03)3942-6426 FAX(03)3942-6820

前号（No.196）ミス・プリの訂正

表題「HACCPについて…」

・助教授 米虫節夫→教授 米虫節夫

・1段↑1 「危害分析・需要管理点方式」

→「危害分析・重要管理点方式」

・2段↑12 その原因が食品製品…

→その原因が食肉製品…

以上訂正のうえ、お詫びいたします。